

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

5番岡野です。通告の許可をいただきましたので、通告書の内容について質問いたします。

このたびの新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、罹患された方々及びそのご家族、関係者の皆さま、感染拡大により日常生活に影響を受けているすべての皆さまに心よりお見舞い申し上げます。そして、感染拡大防止にご尽力なさっている医療従事者、関係者の皆さまにおかれましては感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の1日も早い収束をお祈り申し上げます。

質問に入ります。一部報道では、収束の兆しが見えていると伝えられていますが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況の中、町内事業者は、業界によって差があるが、大きな影響を受けていると思われまます。

国、県、町はこれまで、さまざまな支援を行っていただきましたが、ここまですでにコロナ禍が長引き、感染が拡大している状況では、これまでの支援では行き届かない事業者が増え続け、廃業を余儀なくされることが予想されます。

町長が今年度の施政方針で経済対策について、触れられていなかったため私が質問したところ、「経済対策については具体的にはまだないが、大きな問題。新年度の様子を見る必要性があり、少し時間をいただきたい。」との返答でした。

そこで、質問いたします。現時点で必要な経済支援と新型コロナウイルスが収束した後の、土庄町の経済対策についてどのような対策を講じられているかどうかお答えください。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡野議員のご質問にお答えいたします。

岡野議員のおっしゃるように、コロナ禍が長期化し、いまだ多くの事業者がその影響を受けております。

そのような中、国や県のコロナ対策における事業者支援策はもとより、本町におきましても、昨年度は地元中小企業に対する臨時給付金や応援給付金の給付、また本年度では、特に大きく影響を受けている宿泊業や飲食業、またそれらに関連する事業者への応援金を給付してまいりました。また本定例会には、地域における消費を喚起し、地元経済の活性化を図るため、昨年を引き続き、新たにプレミアム付商品券事業の実施に伴う予算を提案させていただいているところでございます。長引くコロナ禍において、依然として大きな影響を受け

ている地元経済を引き続き支援してまいりたいと考えております。

また、コロナ収束後につきましては、現在、コロナ禍で開催中止や延期となっているイベントも開催できる状況となれば、そこでの地元商工業者との協働はもとより、例えば本町が舞台のモデルとなっているアニメの第3期の放映や映画化も決定しましたので、そのアニメを活用した地元事業者とのコラボ商品の開発、またアウトドアに関連したコンテンツの造成など、本町ならではの魅力ある地域資源や地場製品の磨き上げを地元事業者と一緒に取り組むことで、地元商品の購買意欲を高めるとともに、土庄町のファンを増やしていきながら、地元経済の活性化につなげてまいりたいというふうに考えております。

また、今年度は断念することとなりましたが、国の補助金を活用した、地元企業支援のための地域雇用活性化推進事業に、来年度も改めて申請していこうと考えております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域経済の柱となる商工業や観光業の状況は大きく変容しており、経済対策においても、ただ単に商工業だけということではなく、農業や漁業などの1次産業やそれに伴う6次産業、移住施策や雇用、また交通問題など多くの分野が関連し合うかたちとなっております。

なかなか先の見通せない状況ではありますが、今後は大きな枠組みの中で、即効性のあるもの、また中長期的な視野に立った経済対策を商工会はじめ関係各所と連携協力しながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

先ほどの答弁では、かなり大まかな答弁でしたので、具体的にどのようなことがやられているかという、プレミアム商品券もしくはアニメなどを使ったイベントというふうにしかお伺いしてないんですけども、現在飲食店においては時短要請が出ておりますが、まだ申請用紙も届いてない状況で、その間はたぶん時短期間中、売り上げが落ちている部分についての費用は自分で捻出している企業が多いと思います。そのあたりで、土庄町がどうするか。

また、香川県の安心飲食店認証制度という部分がありますが、その部分につきましては香川県に要請してもなかなか来ない。長い人で2カ月ぐらいかかるといような、せつかくですね、認証店制度を受けるためにコロナ対策を受けてですね、お客様を受け入れようというようなかたちでやられている業者がいるにもかかわらず、そこが認められないという部分で、土庄町と県の連携という部分で、土庄町がもし県と連携してですね、代行してそういうような認証制度を発行できるようなかたちになればですね、認証店制度の店が増えてで

すね、安心して店に行けるといようなかたちも取られるとは思いますが、そのあたりどう思いますでしょうか。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

岡野議員の質問にお答えいたします。県の認証制度でございますが、今、確かに遅いというお声は町民の方からも聞いております。その中で、引き続きわれわれとしましては、県のほうにお声がけをし続けるということで、「なるべく早くしてください」ということはわれわれも問い合わせはしております。ただ、町のほうで単独でやるのか、それとも町のほうを使っただけなのか、そのあたりはまた執行部のほうで、また考えさせていただきまして、今やれることは県のほうの認証制度をしっかりと取ってくださいますというように引き続き周知徹底してまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

その件につきましてですね、早急にですね、県と協議してですね、受けられるお店をできるだけ多くというように、安心して受けられる店ですね、多くというようにかたちで進めていってほしいと思います。

そのほかですね、小豆島町のほうも佃煮業界などかなり疲弊しているところがあってですね、土庄町の卸売業者のほうもかなり打撃を受けているようなことも聞いております。その中で、土庄町と小豆島町での合同でのコロナ経済対策という部分はされてますでしょうか。お聞かせください。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

お答えいたします。小豆島町との合同の産業界への支援といいますか、現在行っておりませんが、情報共有のほうはずっとさせていただいておりまして、例えば土庄町はこういうことをやります、小豆島町はこういうことをやりますということは、情報共有しながらできるところは今後、一緒にやっていたらなど考えております。よろしく申し上げます。

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

小豆島町と連携されるというところで、やはり連携していくということなんで、やはりそういうところ敏感に感じてですね、どの業者がどういようなか

たちで今、打撃を受けているというところで、産業別にですね、どの業界が、どの事業体が、かなりコロナによって売り上げが減っているというようなことを把握してますでしょうか。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

お答えいたします。このコロナ禍における産業別の詳細な影響というのは、把握はできておりませんが、昨年度やりました中小企業を対象とした給付金の実績ベースで見ますと、影響を受けておるのが宿泊、飲食サービス業、そして小売業、卸売業というのが上位ランクに上がっております。影響を大きく受けたということです。という結果出ておりますので、各事業所においては今現在も地域の事業の形態であったり、営業形態であったりの変更を含めてですね、工夫を凝らしながら頑張っておられますけれども、業種も含めてですね、産業界全体で厳しいのかなという状況は推測されます。

これまでも施策をするにあたって、商工会でありますとか、各種団体からですね、要望などによって各産業界への支援策を講じてまいりました。今後も産業界の動向を注視しながらコロナ禍における影響の把握に努めてまいりたい。そして事業者への支援を講じてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

先ほど課長がおっしゃられました、宿泊業について、それにかかわる業者についてやはり売り上げが落ちているであろうところで、調べ方としてですね、金融機関の情報誌なんかでは、香川県全体の業界自体の売り上げの推移は示されております。そういうところで、例えば商工会などに要請してですね、各事業体でどのような売り上げが推移しているかというような部分のアンケートとかも必要であるかと思えます。それで、宿泊業が落ち込んでいるという部分で、プレミアム商品券というかたちで経済支援対策されてますが、まずもって小豆島の方が宿泊されるとは思いませんので、そのあたりのですね、対策を十分に講じて進めていかないと、このコロナが過ぎたあとですね、観光客、いまだに観光客の方が来られてますけども、たぶんかなりの大勢の方が小豆島に来られると思います。そのときにですね、もし営業不振でというようなかたちで、悲しいかたちになったらですね、小豆島に来ても宿泊できないというようなかたちになりますので、早め早めにですね、宿泊業に対しての支援を行っていただきたいと思えます。

あとですね、農業、水産業についてはどのようなかたちで支援していただいていますでしょうか。特に、水産業については聞くところによりますと、消費が少なくなってですね、水揚げが少ない上に、価格も下がっている状況でかなり休まれているというようなことを聞いております。そのようなことで、対策どのようなことを打っておりますでしょうか。

○議長（高橋正博君）

農林水産課長 石床勝則君。

○農林水産課長（石床勝則君）

岡野議員の再質問にお答えいたします。

農林水産業に关します新型コロナウイルス感染対策についての経営に対する支援でございますが、農林水産業に携わる法人・個人につきましては先ほど、商工観光課長からありましたように、臨時給付金等に対応しております。農林水産業の町独自の支援といたしましては、昨年、一部繰り越し事業となっておりますが、ブランド活性化支援事業とかですね、スマート農業推進事業、あと活性化緊急支援事業などの支援を行ってまいりました。今後の支援につきましては、町単独ではですね、なかなか難しいところはあるんですが、今後国、県などからですね、支援策が講じられると思いますので、それらを活用しながら町として支援できることについては、かさ上げ補助とかですね、そういうかたちで支援していきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

先ほどの対策として、ブランドの活性化事業、スマート農業の部分では、ブランドの活性化事業という部分では、やはり消費を促すというところであると思います。スマート事業については、農業しやすいとか、やりやすいという部分での支援だと思ひます。そういうところですね、大消費地に向けて、観光に向けての消費を目的であったためですね、売り上げが減っていると思ひます。そういうところで、逆に一般顧客に消費していただくようなかたちですね、何か支援を行ってれば、そんなに影響受けなかったんではなかろうかと、僕思っております。

当時にですね、私、27年12月に農林水産業の取り組みについてという一般質問させていただいております。そのときにですね、町長の答弁が、会議録をそのまま読ませていただきます。「漁業それから農業両方なんですけれども、「Kブランド」、香川ブランドという話あったんですけども、できれば「Tブランド」でどうでしょうかと、土庄ブランドですね。「Kブランド」、「Tブランド」しながら、第一次産業っていうのは、今後のこれから地方創生にとっては一番重要

な問題になってこようかと思っています。当然、消費するのは都市です。生産は地方です、みたいな、そういったのをこれからもっと明確にしながら、地方にできること、都会へ持って行って、どういう消費ができて、土庄、また小豆島が良くなっていくこともこれから考えていくべきかなと考えております。」というところと、28年11月にも同じ質問しています。このときの町長の答弁では、議会だよりからなんですけれども、「第一産業はこれから地方創生にとっては、一番重要な問題になる。消費するのは都市であり、生産は地方。そのことを明確にしながら、地方でできることを考えていく。」また、29年6月には、創業支援の取り組みについてというところで町長の答弁では、「今後は創業支援、また6次産業化への支援等を土庄町として協力していく。」というような答弁がありました。

そういうところで、何年か前からですね、そういうようなところを真剣に考えていけば、太いパイプというか、小豆島の農産物はおいしい、魚は新鮮だという意識を大消費地の皆さまが持っていただければ、今のような状態には陥ってなかったんじゃないかなと思うしております。そういうところで、また地域おこし協力隊や大学もたくさん大学の大学と包括協定結んでおります。そういうところとですね、連携してやっていくようなことは考えていないでしょうか。町長にお伺いします。

○議長（高橋正博君）

三枝町長。

○町長（三枝邦彦君）

それでは、岡野議員の再質問にお答えしますけど、学校もですね、今4校やっています。その中で、6次産業に向けてパッケージであったりだとか、新しい商品開発等も京都産業大学さんはじめですね、お願いはしています。そんな中でですね、「Tブランド」、土庄ブランドと話ずっと言っていますけども、イチゴであったり、漁業では鱧もあるんですけども、そういったのをですね、今後もっともっと伸ばしていくにはということもあるんですけど、一方で運賃ですね、フェリー代、これもありましたので、このあたりについては小豆島町と連携しながら補助をやっていくと。それについて、ほかの地域との競争ができると。そんなことも今やっています。そんな中で、今後AIであったりとか、スマート農業ですね、これから農業自身が変わってくると思いますし、漁業についてもですね、県のほうも結構いろんな魚をですね、養殖の稚魚を放流したりとかですね、してますからそのあたり含めて、消費拡大というのも今後、必要になってくると思うので、土庄または小豆島からこういう商品が届くということは、小豆島という枠組みでいくと、小豆島町との連携が当然必要になってくるので、そのあたりも含めてですね、これから考えていきたいと思っております。

○議長（高橋正博君）

5 番 岡野能之君。

○5 番（岡野能之君）

以前からですね、これから考えていくという部分で、特に水産業のことに関しては、県のほうが稚魚を放流しているとかいう部分です。この土庄町はですね、今、鱧の話が出ましたけれども、四海漁業協同組合にかなりの助成しております。そういう部分で、鱧の水槽が半年しか稼働していない。じゃあ残りの半年はどう稼働させるかという部分も、これだけの年数あれば考えられたんじゃないかなろうかと思っております。

やはり、一般町民の方との町長の対話が少ない。困っていることを聞いていないというふうに感じ取られますので、そのような対策も引き続き行っていただきたいと思えます。

それからですね、「コロナ支援について相談したいが、どこに行ったらいいかわからない」というようなことをよくお聞きします。そういうところで、なぜですね、土庄庁舎の中でですね、相談窓口・経営支援窓口というようなものを商工会、もしくはよろず支援機構、もしくは金融機関等とですね、タイアップしながら設けられなかったということについてお伺いします。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

失礼します。議員がおっしゃるように本来ですと、経営支援であつたりというところが役場の窓口であれば一番いいんだと思えます。その中で今現在、商工観光課のほうで対応しているわけですが、商工会のほうとも十分話しながらですね、そういう窓口が役場のほうに必要だという話が、もし大きな声が出てくるのであれば、ぜひ、それは置きたいという話があります。なので、よろず相談機構のほうにも、いろいろ相談はまいておったんですが、引き続きですね、その辺の検討をしながらですね、もし置くほうがいいという話になりましたら、ぜひぜひその辺は検討していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○議長（高橋正博君）

5 番 岡野能之君。

○5 番（岡野能之君）

大きな声が、というようなこと課長おっしゃられましたけども、やはり 1 件 1 件の言葉をくみ取ってですね、どれだけ苦しくなっているかということと他人事ではなく、自分事として捉えるようなかたちでですね、対策を講じていかなければ、本当にどんどん、どんどん経済が縮小してですね、土庄町に住みづら

くなる可能性がありますので、そのあたりは十分に考えてやっていただきたい。

また、アフターコロナのことについて少し触れましたが、私、考えるにフェリーもしくは旅行者とタイアップしながらですね、よその自治体では、例えばコロナの検査を行って、陰性であれば優遇措置があるとか、そういうようなところの商品も売り出しております。それからですね、現在来られている方にも、どのような感染対策を行っていただくかというところのアナウンスが、少し声が小さいような気がするんです。実際、コロナが過ぎた後、かなりの人数が来たときに対処できずにですね、また感染が広がるというようなかたちになっていけばですね、経済対策を講じてもまた、同じようなことを繰り返すというところなので、そのあたりは旅行者もしくはフェリー会社、もしくは交通機関、そのほかの交通機関とは対策は練っていただけてますでしょうか。

○議長（高橋正博君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

ご質問にお答えいたします。今現在もですね、啓発チラシのほうですね、作らせていただきまして、各港のほうに、これは観光協会と船舶組合と、あと両町がコラボしまして作ったものでございます。そのあたりの周知徹底というのは引き続きやっていきたいと思っておりますし、今後もやっていく予定です。そして、そのあたりの情報につきましても、各事業所であったり、フェリー会社もそうですけれども、ホームページなんかでは、周知啓発させていただいております。そのあたり、引き続き徹底していきながら、併せてですね、コロナに対する観光客のマナーとかですね、そのあたりのほうの周知も引き続き徹底してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（高橋正博君）

5番 岡野能之君。

○5番（岡野能之君）

そのあたりを徹底してですね、小豆島に来て安心だと、また小豆島の方も島外から来られても安心だというようなかたちにしないと、これからの土庄町の経済の発展はないと思います。発展というよりも原状に戻すことが、まず第一前提だと思います。それから、先ほど申しましたように1年半経っておりますので、ちょっとスピード感がないというか、そういうところでどういような経済対策を打っていくとか、今更というようなこともありますので、できることは早急にですね、やっていただきたいと思います。

コロナの感染防止に対しての対策は、やっぱり健康福祉課ならびに、ほかの課についても大事なことだと思っております。ただですね、またコロナによって廃業に追い込まれ、生活が困難になる方を出さない対策も必要ですので、今



一度対策を進めていただきたいと思います。質問は以上です。